

J-SLA ニュース・レター 2013 年 8 月号

暦の上では秋となりましたが、毎日暑い日が続いております。J-SLA 会員の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。さて、今回のニュース・レターは、サマーセミナーの報告です。

報告： サマーセミナー2013

8月20日(火)・21日(水)・22日(木)の3日間、八王子セミナーハウスにて2013年度サマーセミナーが開催され、31名の方が参加されました。初日午後のワークショップでは、北海学園大学の浦野研氏に統計の概念と分析の意義について解説していただき、無料統計ソフトRを使いながら実際に分析を行いました。2日目午前は、浦野氏に統計についての補足説明や参加者からの質問に回答していただきました。その後、6つの研究発表が行われ、夜は懇親会にてふだんはあまり交流する機会がない他大学の学部生、大学院生、そして教員らが和やかな雰囲気の中で歓談しました。3日目の午前中は3つの研究発表がありました。そして、無事2013年度のサマーセミナーを終了しました。研究発表はいずれも興味深く、発表後には活発な質疑応答が行われました。

以下に3日間のプログラムを掲載します。

8 月 20 日 (火)

ワークショップ 「R を利用した統計」 浦野研(北海学園大学)

8 月 21 日 (水)

- 統計に関する質問及び補足説明
- 研究発表 1 『L1 vs. L2 知覚における抑制効果』
川崎貴子 (法政大学)・ジョンマッシューズ (中央大学)・田中邦佳 (法政大学)
- 研究発表 2 『L2 Acquisition of NP Modification in English』
遠藤麻利恵 ・ 四谷厚子 ・ 鈴木一徳 (文教大学)
- 研究発表 3 『Japanese-speaking learners' production of the third person singular -s, the plural -s and the genitive 's』
山崎妙 (早稲田大学・中央大学)
- 研究発表 4 『日英仮定法に関する考察』 新垣仁奈 (広島大学大学院)
- 研究発表 5 『日本語母語話者による英語らしさ判断』
岩上恵梨 ・ 田中邦佳 ・ 川崎貴子 (法政大学)
- 研究発表 6 『個別言語とパラメータの概念を巡る方法論的・哲学的諸問題に関する考察』 岩崎永一 (早稲田大学)

8 月 22 日 (木)

- 研究発表 7 『ロールプレイタスクと動機付けによる言語産出』

鈴木陽子（神田外語学院）

- 研究発表 8 『シャドーイングがコロケーションの認識速度に与える影響』
住岡紀彦（広島大学）
- 研究発表 9 『英語の Do-support と Subject-AUX inversion の習得』
横田秀樹（静岡文化芸術大学）

ワークショップを快諾いただき、統計についてその概念や経緯について視覚的に、そしていくつもの具体例を提示しながらわかりやすく解説していただいた北海学園大学の浦野研氏に、改めてお礼申し上げます。

また、参加されたみなさんにとって、今回のセミナーが今後の研究に役立つ有意義な3日間であったことを願っております。なお、セミナーへのご意見やご要望などがありましたら、J-SLA 事務局 柴田美紀 (shibatam@hiroshima-u.ac.jp)までご連絡ください。

[Reminder]

日本第二言語習得学会・第14回年次大会（J-SLA 2014）発表者募集

日時：2014年 5月31日（土）・6月1日（日）

場所：関西学院大学 (<http://global.kwansei.ac.jp/>)

招待講演： Claudia Felser (University of Potsdam, Germany)

Harald Clahsen (University of Potsdam, Germany)

J-SLA2014での研究発表を募集しております。研究発表には「口頭発表」または「ポスター発表」および「学生ワークショップにおける口頭発表」があります。発表を希望される方は、当学会のHPをご覧ください。また、ご質問などがありましたら、J-SLA事務局 柴田美紀 (shibatam@hiroshima-u.ac.jp)までご連絡ください。

公募情報：富山県立大学

富山県立大学工学部では、英語教員を募集しています。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D113080584&ln_jor=0

まだまだ暑い日が続くようです。皆さま、体調を崩さないようご自愛ください。

J-SLA 事務局

柴田 美紀